



Kenji Usui Ballet Collection

『ル・パピヨン』 ～マリー・タリオーニが 振付けた唯一のバレエ～ vol.35

2012/6/20 (Wed.)～2012/7/22 (Sun.)

今回ご紹介している『蝶々』は1860年11月26日のパリ・オペラ座で初演された作品です。マリー・タリオーニとジゼルとの台本共同作家であるヴェルノイ・ド・サン・ジョルジュによる2幕、全16場のバレエ・バントマイムです。大変な人気を誇った名ダンサー、タリオーニのこの唯一の振付作品によって主役をファルファッラを踊ったエンマの名前は揺るぎのないものとなりました。

エンマ・リヴリー / Emma Livry
(本名: Jeanne Emma Emarot)
(ダンサー)

1842年9月24日生まれ、1863年7月26日死去

パリ・オペラ座の群舞のダンサー、セレスティン(本名: Margaret Adelaide Emarot)が16歳の時、その娘としてジョッキー・クラブの名士を父として生まれました。母に連れられて11歳で個人教授の元でバレエを習い始め、すぐに才能を見いだされたが、ソリストとしてデビューすべきという教授の勧めと、マリー・タリオーニを鼻屑としたバドマニアの薦めもあり、すぐにデビューはせず、1858年7月1日(16歳)に「ラ・シルフィード」のバド・ドゥとバド・ソルを踊ってデビューした後、ブルミエ・ダンスーズに任命された。

この時代はガス照明が用いられており、衣裳を防火液につける必要がありましたが、衣裳が重くなってしまうので、嫌がるダンサーが多くをしまっていました。エンマもそれを拒否し、オペラ座で防火防止をしない衣裳のための事故が自分で責任を取るという誓約書にサインしています。実際、『蝶々』を踊っている際にも何度か危ない目に会い、オペラ「ボルシチのおし娘」で1862年11月15日のドレスリハーサルの際に衣裳に火が燃え移るという事故にあい、一時は持ち直したものの、8か月の闘病の後、惜しまれながら世を去りました。ノートルダム・ド・ラ・ロレットでその人気の高さを物語る大変な人出となり、多くの人が彼女の早すぎる死を悼みました。

『ル・パピヨン』 ～マリー・タリオーニが 振付けた唯一のバレエ～ vol.35

2012/6/20 (Wed.)～2012/7/22 (Sun.)

出展リスト (作品・資料名/分類/年代/ほか)

◆『ル・パピヨン』バレエ台本
(バレエ台本 [LT-13] / 1860年/パリ・オペラ座出版)
Le Papillon par Marie Taglioni et H. de Saint-George
Mme Ce Jonas / Editeur- Libraire de l'Opera / 1860 / 22.4×15.0cm p.32 (LT-13)

◆『パピヨン』を踊るエンマ・リヴリー
(プリント彩色 [AP-210] / 1809年3月1日)
Académie Impériale de Musique Le Papillon/ valse des Rayons / dansee par Mademlle. Emma Livry Ballet de Mr de St Georges et Mme Marie Taglioni / Musique de J. Offenbach / Composée par Strauss / Pour les Bals de la Court et de l'Opera 1809.3.1. / 27.0×34.2cm (AP-210)

◆マリー・タリオーニのポートレート
(プリント [AP-93] / 1834年)
Portrait of Mlle Taglioni Artist de l'Academie Nationale de Musique / Publié par Blaisot Sallémand / 1834 / 27.7×18.3cm / (AP-93)

次回予告

デニションの活動 ～新しい表現を求めて～

Denishawn ~ Looking for new way of expression ~

モダン・ダンスの踊り手、セント・デニスとテッド・ショーンが結成したカンパニー、デニションは重要なカンパニーです。今ではあまり語られませんが、来日もした彼らの足取りとその芸術をご紹介します。

(期間: 2012/7/25～2012/9/2 於: 2階ボック)

◎企画・監修
芳賀直子(はが・なおこ) 薄井恵二バレエ・コレクション・キュレーター
Naoko Haga (Curator of Kenji Usui Ballet Collection)